

スタッフルーム
Staff room

SFCの四季

いまい はなえ
今井 英恵

(湘南藤沢メディアセンター)

「SFCって不便なところにあるよね？」他キャンパスと比較してよく聞かれる言葉である。

確かに湘南藤沢キャンパス（以下、SFC）は周りに何もなく、最寄り駅からさらにバスに乗らないと到着しないが、緑が多く自然環境に恵まれている。そんな季節の移り変わりを肌で感じられるSFCの四季の様子を綴ってみたい。

まずは草木が芽吹き、モノトーンの風景が色づき始める春。ウメの開花を皮切りにさまざまな花が咲き、キャンパスは一気に華やぐ。春と言えばサクラだが案内見頃は短く、あっという間に散ってしまう。SFCは多くの草木のおかげで長期間にわたって花を愛でることができる。タロー坂のユキヤナギやコブシ、鴨池のキショウブの満開時は見事だ。

この時期に必ずやって来るのがツバメだ。毎年、決まった場所に巣を作り子育てをする。巣立ちが近づくと、早朝のキャンパスで飛行練習中のツバメを見ることができる。ぶつかるのではないかと思う位、近くを飛んでくることもある。しかし、残念なことに巣立ちまで辿りつくツバメは年々、減少している。

梅雨が明けて夏になると、木陰ができるほどに成長した木々からセミの大合唱が聞こえてくるようになる。鳴き声に比例してセミの抜け殻もよく見かける。何故かメディアセンターの通用口でも発見。通用口で羽化しているチョウを見たこともあるので、昆虫が苦手な人には辛い季節かもしれない。

本館横のカスケードには鳥がやってきて水浴びをする。最初はスズメで次がハト。一羽でもカラスが飛んでくると皆逃げていく。カラスの行水と言われるが、意外と丁寧に水浴びをしている。因みにカスケードは節電のために現在は流水を停止している。

夏休み中は、学生の代わりにカモの姿をよく見かけるようになる。置物のように芝生の上に座って気持ち良さそうに風を受けているかと思えば、つがいで仲良く散歩していたり。朝、何

も知らずにバスから降りてバス停にいたカモと鉢合わせした時にはビックリ。しかも一度ではない。バス停にいたということは誰かを待っていたのだろうか？ 夏のSFCは実にのんびりとした時間が流れている。

朝夕の風が涼しくなってくると季節は秋へ移る。秋の空は澄んで高く感じられる。SFCの周辺には高い建築物がないため、どこまでも空が続いて気持ちいい。一面に広がる羊雲や鯛雲は圧巻だ。雲は低気圧と共にやってくるので、天気が下り坂になる頃は雲の展覧会が開催される。

ひと雨毎に気温が下がって草木が赤や黄色に染まる紅葉の季節。紅葉は天気や時間帯で表情が変わる。SFCはタローツリーの紅葉がとても美しい。バスロータリーから坂を上ってくる途中が絶好の写真撮影ポイント。完全に落葉するまで十分楽しめる。メディアセンターからも一枚の絵のような景色が見られるので、読書や勉強の合間には是非、外を眺めることをお勧めしたい。

木枯らしの季節になると風が吹く度に木々の葉が落ち、一面に落ち葉の絨毯が広がる。気温が下がり、吐く息が白くなって寒い日が続くと本格的な冬の到来だ。氷が張り、霜柱が見られ、カモは太陽に向かって日光浴。

冬のSFCは咲く花も少なくどこか寂しい。例外は雪の日だ。雪に覆われて真っ白になったキャンパスは学生の遊び場となる。走り回って新雪の上に足跡をつけたり、雪合戦や雪だるま作りで大はしゃぎ。すぐに溶けてなくなる雪なら良いが、そのまま凍ってしまうと厄介だ。

SFCの豊かな自然に日々癒されている私だが、一つ気になることがある。それは夜のSFCだ。星が沢山見えるということ以外は全くわからない。タヌキやハクビシン、フクロウなどが生息しているらしいが昼間はほとんど見かけない。夜から朝にかけてのキャンパスは一体どんな様子なのだろうか？ 非常に興味がある。